

「中国、韓国、アメリカの対アフリカ戦略とサブサハラ諸国の市場潜在力」

－日系企業の事業機会を探る－ について

平成 25 年 3 月 28 日
日本機械輸出組合
通商・投資グループ

当組合の平成 24 年度エマージング市場委員会では、一橋大学大学院 社会学研究科 准教授 福満久氏にサブサハラ地域の事業環境に関する研究報告論文の作成を依頼し、当組合 WEB サイト エマージング市場情報に公開した。

目次：http://www.jmcti.org/jmchomepage/shijo/pdf/sub-saharan_mokuji.pdf

本文：<http://www.jmcti.org/jmchomepage/shijo/data/sub-saharan.pdf>

1990 年代～2000 年代始めにおけるサブサハラ地域主要国における内戦終結や民主化の進展は、2000 年代に入ると同地域に平均 5.8%と安定的な高成長をもたらした。

2001～2010 年に、世界で最も急速に成長した上位 10 カ国のうち、アンゴラ、ナイジェリア、エチオピア等 6 カ国がサブサハラ・アフリカ¹の国であった。また、IMF は、今後 5 年間はトップ 10 のうちの 7 カ国をアフリカ勢が占めると予測している。

こうした高成長を続けるサブサハラ市場における我が国機械産業の事業機会について、同地域に関するアメリカ・中国、韓国のビジネス戦略の動向、アフリカの近代的経済発展が遅れた要因及び今後の発展経路に関する考察、サブサハラ主要国 12 カ国における政治体制、内政、経済、日本との関係および事業機会の 4 項目について取り纏めた。

第Ⅰ部 対アフリカ政策の比較 — 中国・韓国・アメリカ

第Ⅱ部 アフリカ経済総論

第Ⅲ部 新興サブサハラ・アフリカ諸国

- (1) 東アフリカ：ケニア、ウガンダ、タンザニア、エチオピア
- (2) 西・中央アフリカ：ナイジェリア、ガーナ、コートジボワール、コンゴ民主共和国
- (3) 南アフリカ：南アフリカ、モザンビーク、アンゴラ、ボツワナ

本研究報告が今後の同地域における我が国機械関連企業の事業戦略の一助となれば幸いである。